

令和2年度きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会 (東牟婁の部)

1. 日時 令和3年1月29日(金) 13時30分～16時30分
2. 場所 那智勝浦町体育文化会館
3. 参加者 教職員、学校運営協議会・地域学校協働活動関係者、市町村教育委員会担当者 計44名

4. ねらいと成果・課題

(1) ねらい

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の理解を深め、持続可能な「きのくにコミュニティスクール」の仕組みづくりにつなげる。

(2) 成果

- ・持続可能な仕組みづくりのために、地域と学校が「どんな子供を育てたいのか」という願いを共有することが大切であると理解することができた。
- ・白川郷学園コミュニティ・スクールの取組は、「将来の担い手育て」という目的に向けて実践されていることから、コミュニティ・スクールの活動は目的ではなく手段であることを改めて確認する機会になった。
- ・地域学校協働活動が学校づくりのみならず、地域づくりも担っていることを理解することができた。

(3) 課題

- ・学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進するために、地域と学校がめざす子供像について話し合う「熟議」を充実させる必要がある。
- ・コミュニティ・スクールで「何をする」よりも、コミュニティ・スクールは「なぜする」が大切であることを伝えていく必要がある。

5. 研修内容

◆実践発表

「学校をつくる、地域をつくる ～チームくまのがわと熊野川中学校と～」

〈発表者〉 新宮市立熊野川中学校 校長 吉田 元紀 氏

○「チームくまのがわ」

「いつまでも自分たちの町で楽しく元気に過ごす」を目的に、熊野川地区で平成30年に設立された。毎月1回会合を開き、地域の現状や課題を共有し、活動している。学校運営協議会会長が「チームくまのがわ」のメンバーであるため、学校の現状や課題がダイレクトに地域に伝わり、迅速に学校の課題に対応できる環境にある。



○地域が「学校をつくる」という視点

2011年の大水害の影響で、修繕に困っていた学校の池を整備してくれたのをきっかけに、「チームくまのがわ」は学校の応援団として関わってくれている。水害で止まっていた時計台を整備してくれたり、学校敷地内の草刈りや、技術科の栽培授業の指導などを行ってくれたりするなど、あたたかく学校を支えてくれている。

○学校が「地域をつくる」という視点

地域の方々と中学生と一緒に、防災会議、災害ボランティアセンター設置運営訓練などの防災学習を行っている。熊野川地区にとって防災は大きな課題であるため、地域の方々と中学生と一緒に防災について考えることは、地域づくりとしての意義がある。

○学校と地域の双方向の関係づくり

- ・「チームくまのがわ」と学校が連携してきた結果、中学生には「地域の方々に感謝し地域に貢献したい」という気持ちが高まっている。そこで、生徒会から「地域の方々にお礼を伝える場をつくってほしい」という要望書が校長に提出された。
- ・技術科の栽培で収穫したサツマイモを食べながら交流会を開き、中学生が「チームくまのがわ」の方々へ感謝を伝えた。「チームくまのがわ」の代表者からも「熊野川の子供たちは地域の宝物」という言葉をもらい、学校と地域の双方向の関係づくりが進んでいる。

○「地域に愛される学校」から「地域をつなぐ学校」へ

- ・中学生による地域の見守り活動（地域の一人暮らしのお年寄りを訪問）を計画。
- ・学校を地域の方々の集いの場にしていきたい。

協議① 実践発表の感想を共有

○参加者の感想（抜粋）

- ・高齢化や人口減少が進んでいる地域で、中学生も地域住民も一緒になって、地域づくりができていることは、本当に素晴らしいと思います。大人もたくさんの喜びを子供たちからもらうことにより、日々の生きる糧になっていることが分かりました。
- ・校長が「チームくまのがわ」との接点をうまくとらえて、学校と地域の交流の機会となるようにつなげていったマネジメントが素晴らしいです。



◆講演（オンライン開催）

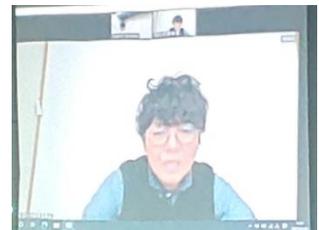
「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」

<講師> 文部科学省CSマイスター

岐阜県白川村教育委員会事務局 社会教育主事 新谷 さゆり 氏

○何をどう進めればよいか分からない

- ・「共通の願い」をもつことからスタート。
- ・白川村では「何のため？（目的）」を地域の方、学校の先生と一緒に話し合った。その結果、「将来の担い育て」という共通の願いが立てられ、その手立てとして学校運営協議会を活用することになった。



○地域も加わった持続可能な仕組みづくり（学校支援部の働き）

- ・地域と学校の共通の願いがはっきりしており、地域の力が授業に根づいていれば、先生の異動があっても活動はリセットされない。
- ・人材バンク整理…多くの地域人材を村内全域から選び、整理している。
- ・白川びと学講座…キャリア教育として地域の大人から生き方や考え方を学ぶ場。
- ・コーディネーター…全学年2名ずつ配置。細部にわたり地域教材と人材を選ぶ。

○地域全体の当事者意識を高めるために（地域活動部の働き）

- ・登校ふれあい週間…登下校時のあいさつ運動を実践。
- ・児童生徒会との話し合い…子供たちの思いを聞き、一緒に取り組めることを実践。
- ・拡大会議…学園や地域の課題を共有し、それぞれの役割と責任を考えていく会議。

○既存の社会教育団体とのつながり

- ・めざす方向（願い）を明確にするための「社会教育推進会議」の開催。新しいつながりによって子供への関わり方が多様化した。

○白川村がめざす「担い手像」とは

- ・帰村する子が担い手、ということではない。
- ・ふるさとへの熱い思いを胸に、村に貢献できる「ひと」が担い手である。
- ・離れていても村のために出来る貢献はある。
- ・帰村は「目的」ではなく「手段」である。

○地域と学校がつながることとは

- ・「つながる」ことが目的であれば、「つながる活動がたくさんできた」「たくさんの方が学校に足を運んでくれた」という評価で終わる。
- ・目的が「村の担い手を育てること」であれば、「つながる」ことはあくまで手段で、「子供たちは担い手となる姿に近づけたか」「担い手育てに必要なつながりであったか」という評価に変わる。それに伴い、地域の大人の意識が変化するようになる。



協議② 質疑応答と感想の共有

○参加者からの質問内容（抜粋）（新谷氏が回答）

Q コーディネーターをどのように確保していますか。

A 各学年の題材や学園の要望に応えられるコーディネーターを、学校支援部7名が相談して選出します。支援部員がアポイントメントを取り、確保していきます。

Q 高校は校区が広いので、コミュニティ・スクールを進めるにあたり、どのようにしていけばよいですか。

A 学校・保護者・地域・さらに生徒との共通の願いは、学校の教育目標や校訓になると考えます。めざす生徒像、生徒自身のめざす自分像に向かう手立てとして、高校の特色ある学びに多くの人に関わってもらえる仕組みをコミュニティ・スクールで進めていけると、素敵な担い手が育つのではと思います。



○参加者の感想

- ・地域と学校が共通の願いを持つことが大切だと感じました。将来を担う子供たちのために、今の大人が子供たちにつけたい力、必要な力を考え話し合っていくことで、子供たちのより良い学びにつながると感じました。地域の人たちと協力して、子供たちのために何ができるのかをこれから考えていきたいと感じます。
- ・活動のみのつながりは、「連携・協働」ではない。この言葉がキーワードとなると感じます。ただ漠然と活動するのではなく、学校・家庭・地域、子供を取り巻く全ての大人が当事者として責任を持って子供を育てていくことが大事だと学びました。
- ・キャリア教育としても素晴らしい取組だと感じました。子供自身が「大人になった自分」をイメージでき、周りの大人たちも「子供の将来の姿」を描けることが、「社会を生き抜く強い力」につながると感じます。
- ・「帰村は手段」「離れていてもできる貢献がある」まさに当地方が直面している問題のヒントをいただきました。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)に関する研修会アンケート【集計結果】

研修会名	きのくにコミュニティスクールの推進に係る研修会(東牟婁の部)
研修実施団体名	和歌山県教育庁紀南教育事務所
研修実施日	令和3年1月29日(金)
CSマイスター等	新谷さゆり 氏

1. 所属、職種の状況について当てはまるものに○をつけてください。

1.教職員	31
2.CS推進員	1
3.教育委員会事務局(学校教育)職員	2
4.教育委員会事務局(社会教育)職員	1
5.学校運営協議会委員	4
6.その他(社会福祉協議会職員)	1

アンケート回収数
40 名

2. 本日の研修会に参加する前の状況について、それぞれ当てはまる箇所に○をつけてください。

	大いに理解していた	おおむね理解していた	あまり理解していなかった	理解していなかった
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)についての課題を明確に認識していた。	6	24	10	0

3. 本日の研修会の内容について、それぞれ当てはまる箇所に○をつけてください。

	大いに参考になった	おおむね参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
①実践発表について	28	12	0	0
②講演について	31	9	0	0

* 本研修会を通して

	大いにそう思う	おおむねそう思う	あまり思わない	思わない
③コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進についての展望が開けましたか。	10	30	0	0

4. コミュニティ・スクールに関わる取組を進めるに当たって課題となっていることについて当てはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでもかまいません)

	割合
①教職員、地域、保護者にあまり知られていない。	20 / 50%
②地域と学校の協議が不十分である。	25 / 63%
③委員やボランティア人材の確保ができない。	22 / 55%
④活動費や委員報酬の支払いなど、財政的な懸念がある。	5 / 13%
⑤教職員の勤務負担が増加する。	17 / 43%
⑥学校の持つ課題を公表してしまう懸念がある。	0 / 0%
⑦地域とのトラブルや守秘義務等に懸念がある	6 / 15%
⑧その他(体制づくり、計画づくりが不十分)	1 / 3%

5. 御感想、御提案などがありましたら御記入ください。

きのくにコミュニティスクールの必要性を感じた。学校の目線で考えると、地域の方々が入ることのデメリットの方を考慮してしまうが、地域の方々に学校のことを知ってもらうことで、生徒の現状を知ってもらえて、それに対して新しい視点で地域の生徒を見守る活動が多くなれば、生徒が安心して過ごせる環境が増えるように感じた。そして、新しいことに挑戦することを楽しめる大人が増えれば、よりよい社会になるように思えた。

大変勉強になるお話を伺うことができました。協働していく上で、人材の確保には、どこも難しさを抱えていると思います。地域の中心となって活動して頂ける方々がいることはありがたいです。ただ、つながりを増やし続けていくためには、特にボランティアをしてくださる方々の目的やモチベーションを見失わないよう、取組の工夫もPDCAの中で丁寧に次につなげることが大切だと思いました。

コミュニティ・スクールの良さや必要性を深く学びました。「楽しんで皆が」「責任感を皆で持って」がキーワードだと思います。子供を大切に思う気持ちは皆一緒です。未来へのビジョンを共有し、今、子供にできることをしていく。大人が責任を持って子供を育てることで、子供も大人になったら周りの子供にそれを返していってくれる気がします。

学校運営協議会の熱量によって差が出てくるという課題は残るが、持続可能な社会の実現に向けてやるしかないという認識(目的)を根付かせるためには、やはり市町村民一人一人の意識改善が必要である。

学校・地域の結びつきを大切に、共通の願いをもって自分のふるさとへ貢献できる子供を育てていくことがよくわかりました。自校で取り組んでいる活動も意識して取り組んでいきたいです。

こちらの地方は、私たちの地区に比べて、大変進まれていると思います。私は、東牟婁地方に三度、研修参加させて頂きましたが、毎回たいへん勉強になります。ありがとうございました。

「チームくまのがわ」のような組織があれば、何事も地域全体での行事ができ、学校も地域もお互いに関係が深まり、深まれば深まるほど、どんどん発展していく。

お二人の話はCS活動づくりにおいて、大変参考になりました。活動づくりにいかしていこうと思います。企画、運営お疲れ様でした。ありがとうございました。

自分の勤務校の地域だと、どのような形になるか、どんなことができるか、また自分の住んでいる地域だとどうか、見通しを持つことができました。

組織力、そして、仕組みや仕掛けの大切さを実感しました。とても今後のヒントとなる時間になりました。感謝します。

何事もやってみることが大切だと感じました。また、目的を明確にすることも大事だと思います。ありがとうございました。

今回のような会を毎年行ってほしいと思います。実践例を聞くのは大変勉強になり、参考になります。

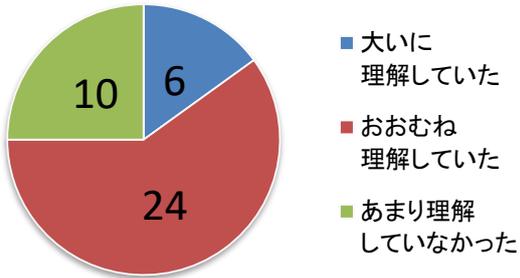
本校の実践にもいかしていきたいです。ありがとうございました。

具体的な実践を聞かせていただき、職場に帰ったら周知したいと思います。

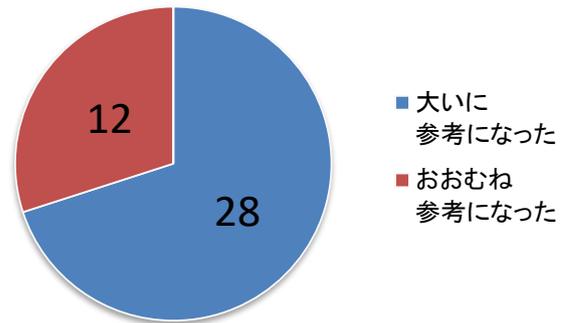
具体的な取り組みの様子を知ることができて、大変参考になりました。

新谷氏の講演がとても勉強になりました。

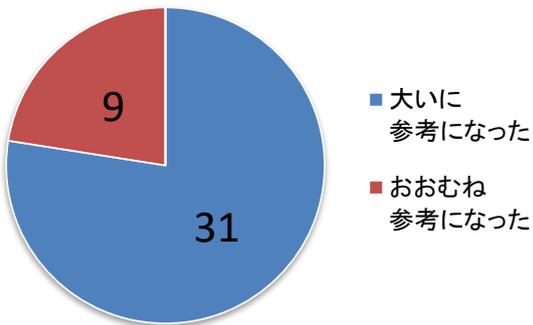
コミュニティ・スクールについて課題を明確に認識していた。(人)



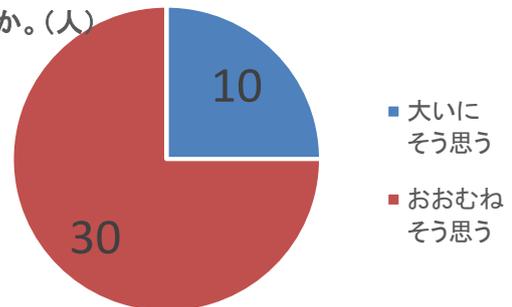
実践発表について(人)



講演について(人)



コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進についての展望が開けたか。(人)



コミュニティ・スクールの課題

